日本美容皮膚科学会
Japanese Society of Aesthetic Dermatology

第35回日本美容皮膚科学会総会・学術大会

イブニングセミナー2

機器による美容治療
～レーザートーニングとBody Contouring～

2017年 7 月 29 日 土 16:35～17:30

第2会場 | グランフロント大阪 北館 B2階 コングレコンベンションセンター ルーム1+2

座長

川島 眞 先生 ［東京女子医科大学 皮膚科学教室 教授・講座主任］

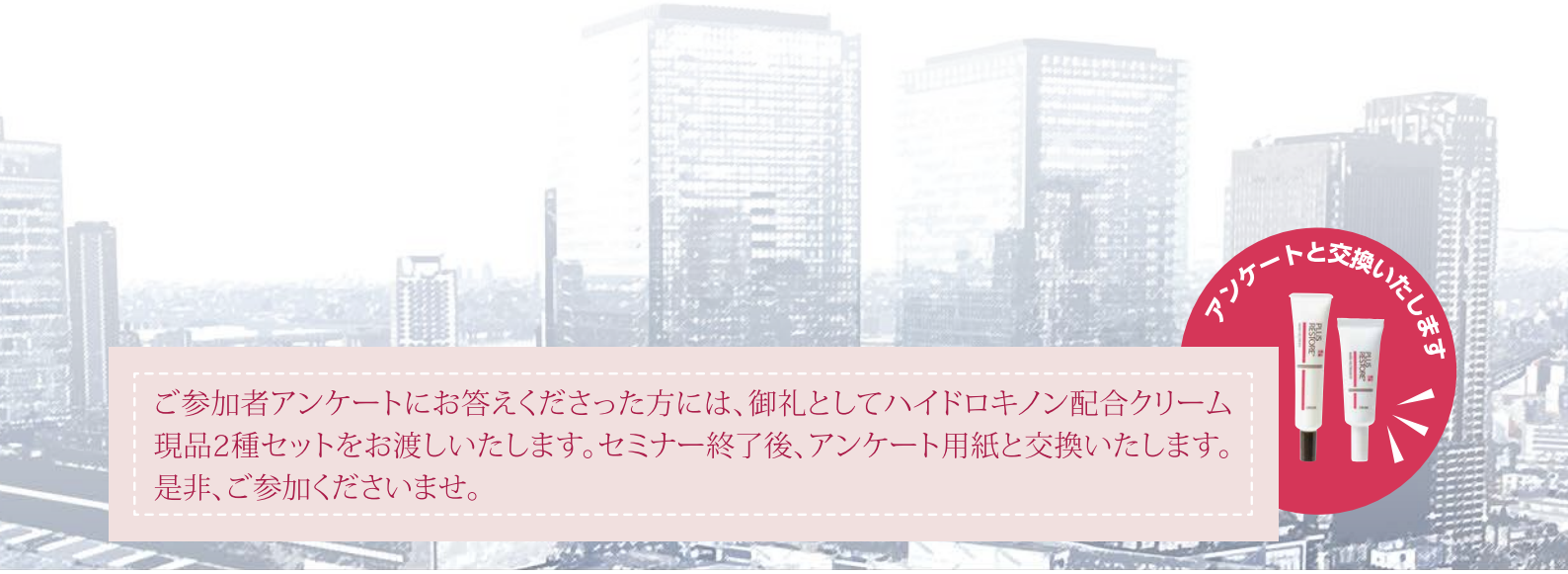
演者・演題

野本 真由美 先生 ［野本真由美スキンケアクリニック 院長］

冷却による局所痩身機CoolSculptingの治療経験

堀内 祐紀 先生 ［秋葉原スキンクリニック 院長］

肝斑に対するレーザートーニングの有用性の検討



ご参加者アンケートにお答えくださった方には、御礼としてハイドロキノン配合クリーム現品2種セットをお渡しいたします。セミナー終了後、アンケート用紙と交換いたします。是非、ご参加くださいませ。

JMEC FOR THE PATIENTS' SMILE 株式会社ジェイメック

共催：第35回日本美容皮膚科学会総会・学術大会／株式会社ジェイメック

座長

川島 眞 先生
［東京女子医科大学 皮膚科学教室　教授・講座主任］

ご講演 1

冷却による局所痩身機CoolSculptingの治療経験

野本 真由美 先生［野本真由美スキンケアクリニック　院長］

CoolSculptingは冷却を用いて非手術に局所皮下脂肪を減らすことによりbody contouringを行う治療である。一定の温度において脂肪細胞は周囲組織より冷却の影響を受けやすく、それにより脂肪細胞は選択的にアポトーシス誘導され、結果として局所脂肪が減少する。現在この装置は80か国を超える地域で5700台以上設置されており、累計治療サイクル数は400万を上回っている。米国FDAにより上腕、ブラ・ファット、背部、バナナロール、下顎部、大腿、腹部および側腹部の脂肪融解の適応で承認されている。
非侵襲性機械による医療痩身は、繰り返し治療ができるメリットがあり、定期的な通院によってのみ実現可能なライフスタイルへの介入ができることも魅力のひとつである。個人に適した食事や栄養指導、施術部位や回数もアドバイスすることができる。一方で、非侵襲性治療には治療効果が写真ではっきりわかる人と分かりにくい人が存在するというデメリットもある。どういう人に結果がでにくいのか、結果がでにくいと予想される人にはどのような治療を組みたてるのか、日々の診療経験から感じていることをご紹介したいと思う。

ご講演 2

肝斑に対するレーザートーニングの有用性の検討

堀内 祐紀 先生［秋葉原スキンクリニック　院長］

肝斑は日本人をはじめとするアジア系人種に比較的頻度の高い顔面の色素沈着症である。従来は肝斑の治療においてレーザーは禁忌とされていた。しかし、QスイッチNd:YAGレーザーの波長1064nmを低出力で繰り返し照射する、レーザートーニングと呼ばれる治療により、肝斑が改善するとの報告がされ、近年急速に広まっている。一方、レーザートーニングの手技が定まっていないなか、レーザートーニングという名称のもとで様々な方法で施行され、肝斑の増悪や色素脱失などの有害事象の報告もある。
肝斑治療は、擦るなどの外的刺激を与えない、紫外線の防御、ハイドロキノンの外用やトラネキサム酸の内服をおこなうことが基本であると考えるが、難治症例に対しては、次のステップとしての治療法の確立が望ましい。
そこで、肝斑治療におけるレーザートーニングの有効性、安全性を評価し、その有用性を検証するために臨床研究を計画した。機械は「QスイッチヤグレーザーQX」を使用し、4施設の医療機関で、実施手順や手技の統一を図ったうえで、2016年2月よりスタートしており、途中経過を報告する。

JMEC FOR THE PATIENTS' SMILE　株式会社ジェイメック　http://www.jmec.co.jp
□東京本社 〒113-0034 東京都文京区湯島3-31-3 湯島東宝ビル　TEL.03-5688-1803　FAX.03-5688-1805
□札幌営業所 TEL.011-748-4311　□名古屋営業所 TEL.052-979-5661　□大阪営業所 TEL.06-6388-1866　□九州営業所 TEL.0957-49-8100
□研究開発センター TEL.0957-49-8100

医療機器の品質保証のための国際規格 ISO13485
研究開発センターにて認証取得